

## 株式会社レゾナック・ホールディングス 2024年3Q 決算説明会 Q&A要旨

日時：2024年11月12日（火）17:00～18:00

説明者：取締役 常務執行役員 CFO 染宮 秀樹

\*内容は、開催日時時点の情報に基づいております。

### 【全社】

**Q 業績予想の見直しにおいて、特別損失の織り込みが増加しているが、内容と確からしさについて、伺いたい。**

A 減損等を中心とする増額で、蓋然性は一定程度高いが、100%確実とは言えない。

**Q 利益水準が向上していく中で、改めて株主還元の方針について伺いたい。**

A キャピタルアロケーションは、営業キャッシュ・フローの半分から2/3を半導体材料等の成長事業への設備投資に充当し、残りを借入金の返済と株主還元へ充当していく、これまでの方針を維持していく考え。

**Q 営業外損益の1-3Q前期比▲95億円の背景について、持分法投資損益の変動も踏まえ伺いたい。また、下期業績予想における営業外損益について、前回公表値より▲60億円と見直した背景についても伺いたい。**

A 為替差損益が、前年の為替差益から為替差損に転じたことによる▲100億円の減益が主な背景。尚、持分法投資損益は増益、金融収支は前年並みとなった。また、業績予想においては、前提とする為替レートの変動による、為替差益の悪化が下振れの背景。

### 【半導体・電子材料セグメント】

**Q 半導体・電子材料セグメントの2Qから3Qにかけての営業利益の増益について、サブセグメント別の動向について伺いたい。**

A 全サブセグメントで増益となっており、半導体後工程材料とHDメディアの需要回復に伴う数量増加による増益が大きい。HDメディアについての固定費削減効果が顕現したことも背景。半導体前工程材料についても、NAND需要の緩やかな回復の中、着実に増益した。

**Q 2Qから3Qにかけて、半導体後工程材料において、NCF等のAI関連材料の売上は伸長したか、伺いたい。**

A 半導体後工程材料において、NCFやTIM材、銅長積層板といったAI関連材料の売上は、2Qから3Qにかけても伸長している。

**Q 半導体・電子材料セグメントの下期の業績は、持続性があると考えて良いか伺いたい。**

A 下期のEBITDAマージンは30%程度であり、一旦目標の収益性水準に到達しつつある。来年に向けても維持か、さらに改善したいが市況によっても変わるため、予算策定の中でさらに詰めていきたい。

### 【ケミカルセグメント】

**Q ケミカルセグメントの2Qから3Qにかけての営業利益の増益について、サブセグメント別の動向について伺いたい。**

A 石油化学と化学品は、2Qには誘導品の定修があったため、3Qにおいて数量が増加し増益となった。黒鉛電極は、受払差の改善を販売数量の減少が打ち消し、2Q並みの赤字規模となった。

**Q ケミカルセグメントの業績予想について、前回公表値より減収・減益となる背景を伺いたい。**

A 石油化学の減収・減益が背景で、主にナフサ価格下落に伴う販売価格の下落の織り込みによるもの。今回の業績予想においても、4Qの石油化学は黒字を維持する織り込みとなっている。

**Q 黒鉛電極の生産能力の最適化に関する進捗について、伺いたい。**

A 2Q決算時点でお伝えした内容から変わらず、黒鉛電極の生産能力の最適化についての議論を社内では行い、検討している。決まったことは現状ないため、今後のアナウンスをお待ちいただきたい。

以上

\*本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、国際情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極等製品の需要動向および市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

